D 主 中 主											
尿素窒素											
UN											
検査オーダー											
患者	同意に関する要素	求事項	特記事項なし								
オー	ダリング手順	1	電子カルテ→指示①→検査→*1.頻用→								
		2	電子カルテ→指示①→検査→*2.分野別→生化学→								
3			電子カルテ→指示①→検査→*3.緊急→								
4											
5											
検査に影響する臨床情報			特記事項なし								
検査受付時間			緊急対応(24 時間)								
検体採取・搬送・保存											
患者の事前準備事項			特記事項なし								
検体採取の特別なタイミング			特記事項なし								
	検体の種類		取管名	内容物	採取量	単位					
1	全血	10 青		分離剤	8	mL					
2	他材料	10 青		分離剤	8	mL					
3	-	-		-	-	-					
4	-	-		-	-	-					
5	-	-		-	-	-					
6	-	-		-		-					
7	-	-		-	-	-					
8		_	安阳	-	-	-					
	搬送条件		室温 1)採取容器造いの投体								
検体受入不可基準 			1)採取容器違いの検体 2)バーコードラベルの貼られていない検体								
			3) 固形物								
			4)粘性のある検体								
保管	検体の保存期間		・ 冷蔵・2 週間(追加検査については、検査室に要問合せ)								
検査結果・報告											

検査室の所在地		病院棟 3 階 中央検査部									
測定時間			当日中~翌日								
生物学的基準範囲			8-20mg/dL								
			日本臨床検査標準化協議会 共用基準範囲								
臨床判断値			設定なし								
基準値					単位	mg/dL					
共通低値	共通高値	į	男性低値	男性高値	女	性低值	女性高値				
8	20		設定なし	設定なし		定定なし	設定なし				
パニック値	高値	設定	設定なし								
	低値	設定なし									
生理的変動要因		特記事項なし									
臨床的意義		食事蛋白質や組織の分解などアミノ酸の脱アミノ反応によりNH3が産生される。このNH3									
		は肝臓の尿素サイクルに入り、最終代謝産物である尿素に合成され腎臓より排泄される。									
		したがってBUN値は摂取蛋白、蛋白異化、肝による尿素合成、腎による排泄の3要因の									
		影響を受ける。一般的にはこのうち腎機能の検査として利用されることが多いが、血清 Cr									
		値との比(BUN/Cr)より腎不全患者の蛋白制限食の管理などにも用いられる。									
		日本臨床第 7 版 651,2009									

2 / 2 生化 146